

皆さんはもうご覧になられましたか？9月1日の広報ふくつは、今年7月に国から認定されたSDGs未来都市の特集でしたね。ということで、今回のESDのひろばは「SDGs未来都市 福津」の記念号をお届けしたいと思います！

SDGsとまちづくりって関係あるの？

福津市では「海岸清掃や松林の保全活動」「郷づくり」「郷育カレッジ」「くらしのサポートセンター・サンクス」「福間ゆーあいの会」「あんずの里」などをはじめ様々な、市民の幸せな暮らしを支える取り組みが沢山あります。そして、これらの取り組みをSDGsの視点から「深化」させることに意味があるようです。

では、この「深化」とは一体どのようなことをしていくことなのでしょうか？そのヒントを福岡教育大学の石丸哲史教授がユネスコスクール・ESD実践交流会の分科会の中で指導助言された「SDGsの意味」の中にみつけることができます。

先生の言葉を要約するとSDGsを行う上で大切なことは、「まず、自分や周りの人の今がどうなのか？」という現状と、このままでは持続できなくなる課題をあきらかにすることです。そして、「どこまでやるのか？」とその課題のゴールを具体的に設けることです。このゴールが、SDGsの17のゴールにあてはまります。そして、自分達で決めたゴールを達成するには、「どうすればいいのか？」と考え、実行することが持続可能性の追求になるのです。このように、これまでの取り組みにSDGsの視点を入れることで、それぞれの課題が分かりやすくなり、課題どうしの共通の問題点が見えてきたりします。広報の中にも、「市民、事業者、学校などのさまざまな個人や団体など多くの人の参画を得ての推進体制づくりが必要です。」とあるようにSDGsは「共働」の取り組みが大切です。SDGsによる深化とは、私達の身の回りの課題を明らかにして、自分達がこれまでやってきた取り組みの強みを活かし、また新しい取り組みを加えながら、人と人を繋いで、それぞれが自分事として取り組むことによって、社会全体を良くすることと言えるのではないかでしょうか？それが「持続可能なまちづくり」なのだと思います。

SDGsは世界の取り組みじゃないの？

福津市では「市民共働で推進する幸せのまちづくり」を掲げて、社会面、環境面、経済面での課題を統合的に解決していくとありますが、これもSDGsの視点からきています。右下の図は「SDGs ウエディングケーキ」といって17のゴールを下から「環境」「社会」「経済」のカテゴリーに分けたものです。このように地域のコミュニティが実践する取り組みや、そこでの成功事例が、持続可能な世界を創ることにつながっているのです。

